

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

### 1 調査の実施状況

令和5年4月18日実施

### 2 実施教科

国語、数学、英語、学習及び生活に関する質問紙調査

### 3 教科に関する調査結果

平均正答率が3教科とも全国平均を大きく上回っています。また、各教科の領域別に見ても、すべての領域で全国平均を上回っています。

教科	全国の平均正答率	本校の全国平均正答率との差	
国語	69.8%	全国平均を大きく上回る	+5%以上 : 大きく上回る +3~5% : やや上回る ±3%未満 : ほぼ同じ -3~5% : やや下回る -5%以上 : 大きく下回る
数学	51.0%	全国平均を大きく上回る	
英語	45.6%	全国平均を大きく上回る	

### 4 考察と今後の対策 (○：成果が見られた項目 ◆：課題が見られた項目)

#### (1) 国語科について

- 「話すこと・聞くこと」の平均正答率が全国平均を大きく上回っており、話の内容を正確に捉え、聞き取った内容を基に自分の考えをまとめることができます。
- 質問紙の「自分の考えをわかりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方の工夫をしていますか。」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒が多かったことから学習の成果が表れていると考えられます。
- 「書くこと」について、文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうか見る問題では、全国に比べてかなり高い正答率であり、小テスト等の成果や普段から適切に漢字を使って文章を書けていることが考えられます。
- ◆ 「情報の扱い方」に関する設問では、全国平均とほぼ同じですが、他の設問に比べて平均正答率がやや低くなっています。「原因と結果」「意見と根拠」などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用できるようになることが大切です。
- ◆ 「読むこと」の領域の「文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること」についての設問では、他の設問が全国平均正答率から大きく上回るのに対し、全国平均正答率より低くなっています。文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするためには、文章の内容を理解するだけでなく、自分が持っている知識や経験と結び付けることによって、理解したことや考えたことをより具体的に明確なものにしていくことが重要です。

#### (2) 数学科について

- すべての領域の平均正答率が全国平均を大きく上回っており、授業での小テストや振り返りの成果が表れていると考えられます。
- 「データの活用」について、新しい学習指導要領に追加された「箱ひげ図」に関する問題では、全国に比べてかなり高い正答率であり、「箱ひげ図」を理解して説明することができる生徒が多いことが伺えます。
- ◆ 「図形」の正答率は全国平均を大きく上回っていますが、他の領域に比べて正答率が低くなっています。条件を変えた場合にどの根拠が成り立たなくなったのかを読み取れていないため

証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理して図形の性質を理解し、問いに対して表現することが大切です。

(3) 英語科について

- すべての領域の平均正答率が全国平均を大きく上回っており、常日頃から英語でコミュニケーションを図って積極的に活動しようとするなど、学習に取り組む態度が成果につながっていると考えられます。
- 日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ったり、事実と考えを区別して読んだりすることができています。
- 「書くこと」について、未来表現 (be going to) の肯定文を正しく書く問題や、メールの英文を依頼する表現に変えて書く問題では、全国に比べてかなり高い正答率であり、基礎的な英語力を身に付けて適切に活用することができる生徒が多いことが伺えます。
- ◆ 社会的な話題について、自分の考えやその理由などを書くことに課題があります。その上で、自分の意見を書く際には、なぜそのように考えたのかという理由を、書き手の意見を踏まえて書くことが重要です。また、特に英文を書く際は、基本的な単語や文法事項を理解して文章を書けるようになることが大切です。

(4) 学習や生活の状況に関する調査について

- 「将来の夢や目標をもっていますか」という質問に対して、肯定的に答えた生徒の割合が高くなっています。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対しても7割の生徒が肯定的に答えており、目的意識を持って学習にも取り組んでいると考えられます。
- ◆ 「毎日、同じ時刻に寝ていますか」「毎日、同じ時刻に起きていますか」という質問に対して肯定的に答えた生徒は全国平均と比べて少なく、朝食を食べることや学習時間にも影響していると考えられます。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対しても肯定的に答えた生徒の割合は低くなっています。生活のリズムを整え、毎日決まった時間に学習に取り組むことが、学力の向上につながるものと思われます。

今後のポイント

家庭での生活・学習習慣の定着が学力の向上を支えます。特に、朝食は一日の活力の源です。今後も、朝食を食べてから登校するなど、ゆとりのある朝の過ごし方を意識していきましょう。

ゲームやインターネットなどの使用について、家庭で使用時間や、使用方法についてルールを決めて使いましょう。特に、SNSの使い方については、人間関係のトラブル・ネットいじめ・犯罪などの危険が潜んでいることをしっかりと理解しましょう。便利な機器も、ルールがなく使用していると、依存症や犯罪の道具となってしまいます。